

○1番（佐怒賀康輔君） 皆様、こんにちは。また、傍聴の皆様方におかれましては、お忙しい中お越しいただき、ありがとうございます。議席番号1番、佐怒賀康輔でございます。議長のお許しを得ましたので、通告に基づき質問をさせていただきます。

橋本町長におかれましては、安心安全なまちづくりの目標の下、日々先進的な取組にご尽力いただき、ここに深甚なる敬意を表します。

それでは、まず質問第1項目めに入らせていただきます。当町は、日本国内にとどまらず、海外との連携も積極的に行うことで、非常にグローバルな視点でのまちづくりを行っていることと思います。姉妹都市等との今後の取組についてご質問いたします。

まず、ホノルル市についてでございます。平成28年2月、ホノルル市を初訪問して以来、当町とホノルル市は、実に6年間もの間、友好関係を築いてまいりました。平成30年には友好都市として正式に協定を締結し、昨年には、ついに姉妹都市としての協定を締結したということも記憶に新しいことと思います。

ハワイのホノルル市と言えば世界屈指の観光地ですから、ここと姉妹都市になるというのは本当にすごいことですし、直接的な歴史的関わりもなければ、海もない自治体の境町が、どうしてホノルル市と姉妹都市になれたのかと、各方面から偉業として注目をされているというふうに認識をしております。そこで、今後、姉妹都市となった当町とホノルル市との間では、どのような文化交流及びビジネス面における交流を予定しているのかについてお考えをお聞かせ願います。

続きまして、フィリピン共和国マリキナ市についてでございます。当町からマリキナ市へ救急車を1台お送りした件で、私も先月現地で行われた救急車の寄贈式に参加してまいりました。空港到着から帰路に至るまで、とにかく現地の皆さんの非常に温かい歓迎を受け、改めてマリキナ市と境町の友好関係に深く感動した次第であります。

現地では様々な主要施設を視察をしてきたわけですが、その中の一つに消防及び防災対策倉庫というものがありません。フィリピンは、世界でも自然災害が非常に多い国の一つとされておりまして、マニラ首都圏、沿岸低地であるため、台風の影響を非常に受けやすく、同地域の経済、社会活動というのは、洪水によって深刻な被害を受けてきたという歴史があります。そこで、防災対策についての質問となります。

過去に消防車、今回は救急車といったように、非常時における大きな支援を行ってまいりましたが、今後もマリキナ市に対して、このような防災面での補助ですとか、あるいはあちら側の防災対策で何か境町でも見習うことができる部分の共有ですとか、そういった防災対策における連携を今後も積極的に行っていくのがよいのではないかというふうに思うのですが、当町としましては、そちらはどのようにお考えかお聞かせ願います。

次に、アルゼンチン共和国との今後の交流についてご質問です。長田小学校を起点に始まった当町とアルゼンチン共和国との交流においてですが、近年は東京オリンピックをきっかけに、スポーツによる交流も盛んになってまいりました。つい先日は、東京2020で見事に銀メダルを獲得したホッケー女子アルゼンチン代表団が来日をして、境町のホッケー場

にて日本代表、さくらジャパンとの交流試合等もありました。非常にアルゼンチンは遠い国で、ほとんど地球の反対側に位置するような当町とアルゼンチン共和国ですが、今日にまで続いてきた交流の灯を絶やすことなく、より一層深い関係を築いていければと考えております。

そこで、質問ですが、アルゼンチン共和国との今後の国際交流についてはどのようなことを予定しているのでしょうか、お考えをお聞かせ願います。

続きまして、第2項目めに入らせていただきたいと思います。先日、全協でも少しお話があったのですが、改めてさかエール!! P a y についてご質問させていただきます。先月販売を開始した電子型地域復興クーポンのさかエール!! P a y ですが、こちらは個人的にすばらしい取組だというふうに感じております。世界各国をはじめ、こうした地域通貨においては、全国的にも非常に注目を集めている取組だと感じております。

地域通貨というのは、特定の地域やコミュニティー内だけで流通、利用できる通貨のことであり、地域経済や地域コミュニティーを活性化させる効果が期待でき、昨今ではデジタル地域通貨というのが特に注目を集めております。紙のクーポンと比較すると、印刷費がかからない点、ネットで24時間購入できるので、販売人件費がかからない点ですとか、あとは貯蓄をさせずに流通を促すという目的なので、無利子で資産価値をなくしている点など、非常に今後の発展が期待できるものと思われま

そこで、こちらのさかエール!! P a y についてのご質問ですが、まず現時点での流通額がどれくらいかということをお聞かせ願います。また、今回は町民限定での販売となっておりますが、今後利用者層を拡大し、外部からの訪問の方にも活用してもらえよう広めていくことで、町内経済を活性化させることができるかと思いますが、そちらについてはどのようにお考えかお聞かせ願います。

以上2項目、5点を挙げさせていただきましたが、執行部の誠意あるご回答をよろしくお願い申し上げ、第1回目の私の質問とさせていただきます。どうぞよろしくお願

○議長(倉持 功君) ただいまの姉妹都市等との今後の取組についての質問に対する答弁を求めます。

最初に、秘書公室長。

〔秘書公室長 忍田 博君登壇〕

○秘書公室長(忍田 博君) それでは、佐怒賀議員の1項目め、姉妹都市等との今後の取組についての1点目、ホノルル市との文化交流及びビジネス面における今後の交流についてのご質問にお答えいたします。

ハワイ州ホノルル市との交流は、当町の子供たちが活発に国際交流できる環境づくりのため、姉妹都市協定の締結を目指し、平成28年2月に初めて、ハワイ州政府やホノルル市庁舎、在ホノルル日本国総領事館、教育関係機関や農業関連施設などの関係機関を訪問して意見交換を行ったところから始まっております。その翌年から、3年連続で6月に境町ウィークとしまして、ワイキキビーチでの花火の打ち上げを行い、平成29年は19名、平成30

年は113名、令和元年は59名の町関係者と町民の皆様に参加をいただき、現地でのフラダンスの披露など文化的な交流や町のPRを実施して関係性を深めてまいりました。

その結果、平成30年9月25日にはホノルル市と友好都市協定を締結し、さらに令和元年12月19日に、同市マリアマヌ中学校と境第一中学校、境第二中学校間で姉妹校協定を締結いたしました。その後、新型コロナ感染拡大の影響によりまして、直接対面での交流はできませんでしたが、両市町の小中学生がオンラインを活用し、意見交換を行うなどの交流を重ねてまいりました。このことがホノルル市からも高い評価をいただき、令和3年11月18日に姉妹都市協定を締結いたしました。国内の自治体としては、広島市、那覇市、宇和島市、長岡市、茅ヶ崎市に続くホノルル市との姉妹都市となります。また、令和4年5月12日には、同市のノエラニ小学校と境小学校が姉妹校協定を締結しております。

文化交流につきましては、今般のコロナ禍により延期となっております、マリアマヌ中学校の生徒たちの当町へのホームステイ事業につきまして、現在、来年3月の実施に向けて準備を進めているところでございます。その後は、当町の子供たちをホノルル市に派遣し、ホームステイや研修などの交流事業の実施を予定しております。

また、姉妹都市締結の際には、ホノルル市のリック・グランジャルデ市長から、また境町ウイークを開催し、ワイキキビーチで花火大会を実施してほしい。楽しみにしているというお話をいただいております。そのご要望を受けまして、ロイヤル化粧品株式会社様と協議をした結果、境町ウイーク実施に対し、企業版ふるさと納税をいただいたところでございます。ただ、今年度は、まだまだ新型コロナの影響により、海外との往来が制限されている部分もあり、併せて燃料高騰、円安などにより、旅費が非常に高騰している状況でございますので、来年度の事業実施に向けて現在準備を進めているところでございます。

ビジネス面における交流につきましては、これまでのホノルル市訪問の中で、当町の観光協会、商工会関係者が代表団に入り、現地の商工会を訪問し、意見交換をするなどの交流を実施してまいりました。令和2年7月9日には、町内でのホノルル市との交流拠点となる境町観光情報発信施設がオープンし、ハワイ風カフェとハワイ産の商品を扱う物販コーナー、町の観光情報発信コーナーを設け、観光客の呼び込みを図っております。

今後、観光地であるホノルルにおいて、現地の方々や日本からの観光客に対し、境町ウイーク開催等を通して、当町の知名度向上と境町地場製品のPRを行うとともに、引き続き両市町の商工会間の連携や現地企業などの訪問、視察などを重ねるなど、ビジネス面での交流も積極的に検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 次に、危機管理部長。

〔危機管理部長 野村静喜君登壇〕

○危機管理部長（野村静喜君） それでは、佐怒賀議員の1項目め、姉妹都市等との今後の取組についての2点目、フィリピン共和国マリキナ市との防災対策連携についてとのご質問にお答えをいたします。

8月8日から8月10日までの3日間の日程で、議員の皆様にも同行いただきまして、フィリピン共和国マリキナ市を訪問し、救急車の寄贈を行ってまいりました。このセレモニーの中で、マリキナ市のマルセリーノ・テオドロ市長より、50万都市であるマリキナ市の消防車は大型車両であることから、当町から前回寄贈した消防車について、小回りが利いて非常に有効に活用されているということで、感謝のお言葉をいただいたところでございます。

マリキナ市では、台風のシーズンの被害であったり、水害の被害であったりと様々な面で小型車両の活用が期待されていることから、今後もこのような消防車を贈れるような事業を展開して、連携を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 最後に、教育次長。

〔何事か言う者あり〕

○議長（倉持 功君） 企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） 改めまして、こんにちは。それでは、佐怒賀議員の1項目め、姉妹都市などとの今後の取組についての3点目、アルゼンチン共和国との今後の交流についてのご質問にお答えをいたします。

議員さんもお承知のこととは存じますが、境町では平成28年6月にアルゼンチン共和国のホストタウンとして登録されてから、今年の東京オリンピックをはじめ様々な交流を通し、従来からの親睦をさらに深めてきたところでございます。直近の交流としましては、8月28日に境町の招聘で実現しました、東京都品川区の大井ホッケー競技場で開催されました、SOMPO JAPAN CUPホッケー日本代表国際親善試合において、ホッケー女子アルゼンチン代表とさくらジャパンの試合のエスコートキッズとして、境町の小学生24人が選手と一緒に入場し、会場を大いに盛り上げたところでございます。

また、今年のオリンピックの際には、競技終了後はすぐに帰国しなければならないという規定があったことから、選手と子供たちとの交流が実現しませんでした。今回このような形で交流が実現できたことは、大変すばらしいオリンピックレガシーになったものと感じております。

試合後に、エスコートキッズに参加した小学生に感想を聞きますと、ちょっとどきどきしたけれども、貴重な体験ができたですとか、間近で迫力のある試合が見られてすごかったなどの声をいただき、夏休みの最後にとってもよい思い出づくりができたものと思っております。

また、当町と同国との友好のあかしであるモンテネグロ会館におきましては、さしま茶カフェと資料館が併設されていることから、この歴史について知識を深める目的で来町される方もいらっしゃるというふうに伺っております。歴史や伝統を通して関係人口の増加を図るとともに、今後はコロナ禍で中断となっていたアルゼンチン共和国への児童派遣事業なども復活させ、さらにはアルゼンチン共和国の都市との姉妹都市や友好都市の締結をす

るなど、今後なお一層交流を深めてまいりたいと考えております。

さらに、10月31日には、アルゼンチンオリンピック委員会より、これまでの境町の功績をたたえ、町長が表彰を受けるということになっていきますことから、アルゼンチン訪問を予定しておりますので、議員の皆様にもご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が、いまだ猛威を振るっているということを念頭に置きながら、時代のニーズに合わせた取組を行い、90年続いた交流を、今後100年、150年と継承し、歴史、伝統を重んじながらも創意工夫を凝らして、交流のさらなる深化を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご丁寧な答弁ありがとうございました。ホノルル市について質問なのですけれども、よく町民の皆さんからもお伺いされることが非常に多いので、ちょっとお伺いしたいなと思っておりまして、コロナ禍になる前の、町民も含めて、ハワイツアーとして、町民単位での交流ということでハワイに行ったということがあったと思うのですが、今後、これはコロナ次第というところは承知の上での質問なのですが、行く行くはまた、今子供たちはハワイとの交流というのは実際に行っている一方で、大人たちがハワイとの直接的な交流というのはそんなに多くないと思うのですが、こういったハワイツアーなんかというのを今後も開催というか、募集を募って、ハワイとの交流をしていくみたいなハワイツアーの予定というのは、実際には何か検討されているのでしょうか、お聞かせいただければと思います。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えします。

花火大会の話で、ホノルル市長から要望があったということで、企業版ふるさと納税をいつもいただいているロイヤル化粧品さんと協議の結果、金額についてはもういただいております。ですので、今年度は燃油サーチャージが高かったりとかコロナが落ち着かない中、そして円安もあったりして、まだ成田空港から飛行機が随分飛んでいないというような状況もあるものですから、行く人たちも大変だろうということで、次年度、今ウイズコロナということで、経済を回すということにもなっておりますけれども、そういった中で花火大会が実施できるのであれば、町民の皆さんにも、そして子供たちにも、一緒に行って見るような、そんな機会は、議会の皆さんともまた相談になりますけれども、つくっていききたいというふうには思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご回答いただき、ありがとうございました。前回参加した方が、すごく楽しかったと。ハワイが身近に感じられて、境町がホノルルと仲よくなっているとい

うことをすごくいいことだというふうにおっしゃられる方が多かったので、ぜひ今後のツアーだったりとか、花火大会の開催に期待をさせていただければと思っております。

これは質問ではなくて、ご提案になるかと思うのですけれども、ホノルル市では、友好のあかしとして、6月4日が境町の日というふうに制定されていると聞いております。当町におきましても、例えばホノルルの日なんかを制定したりですとかということで、お返しではないのですけれども、友好関係のアピールなんかというのができるといいのかなというふうに考えているのですが、そういったところは、その日の制定というところを、実際にどれぐらいの規模が自治体でできるのかどうかということも含めてなのですが、ちょっとやっていければなと思っております。

ということで、すみません、提案だったのですが、こちらに関しては以上です。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） それは要望というだけ。

○1番（佐怒賀康輔君） 要望ですね。

○議長（倉持 功君） ほかの姉妹都市関係は大丈夫ですか。その次。

では、佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） フィリピンに関してなのですけれども、ALTの先生たちが小中学生とも非常に仲よく交流していて、非常に評判であると聞いているのですが、実際にフィリピンに渡航した際に感じたところとして、実際フィリピンにおける平均月収というのは、今3万円未満というふうに言われていて、日本の境町に行くということが、既にあちらではブランドの一つのような状態になっておりました。日本の境町に行って英語教育を教えるというところで、環境もよくて、収入も確保できてというところで、いわゆる一つのシンデレラストoryのように、境町に行って、自分も何かそういう仕事をしたいというような方の意見をお伺いしてきたのですけれども、境町としては、有用な人材を確保しつつ、ご本人たちにとって整った海外環境で仕事ができるという、この両面を押さえることで、より深い交流ができればなと思うのですが、今後マリキナ市との人材交流等について、何かお考えをされていることがあればお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えをします。

フィリピンから先生を取るといふか派遣していただく際に、今までALTというのは、カナダから来たとかアメリカから来たら、もうALT、英語の先生の資格を持っていなくてもなれたのです。今もなれますよね。うちは、今回のスーパーグローバルスクール事業をやるのに当たって、英語の先生の資格を持っていて、なおかつ英語の先生の実務の経験があるというところを最低限の採用基準にしてやらせていただいています。ですので、非常に先生方も評判がいいですし、教え方も上手ですし、そして何よりもすごく優秀であると。

今はもう、本当に東大を超えるような大学がフィリピンにも幾つか出てきているというような中で、そういった先生たちを確保できているというのが現状でありますけれども、今

後の課題としては、こういったスーパーグローバルスクール事業、こういったものが非常にあちらこちらから、市町村から今視察に、茨城県内はもう何か所か視察に来ていただいています。そういった際に、今度大洗でも始めるという話を聞いていますけれども、先生の取り合いになる部分。やはり今回オンラインがこのコロナによって非常に進みました。そのことによって、こちらへ来なくても、あちら側で教えることができるということで、そういった先生とか、そういったものの取り合いになっているという部分がございますので、一つは、課題としては、今後とも安定して先生たちに来ていただいて、子供たちに教育をしていただく。

成果としては、本当にこの間も議員さんたちも見ていただいたとおり、小学校6年生たちが英語でしゃべっていると。皆さん若いので、あれかもしれないですけども、枝議員、我々の世代ですよ。我々の世代からすると、中学校2年生、3年生で習っていたようなことを小学校3、4年生ぐらいでもうやっちゃっているのです、一中、二中の英語の先生からも、英検3級をもう取得した段階で中学校に上がってきたとか、準2級も取得する段階だとか、そういう子たちが出だしてきていますので、今後こうして日本が、今いろいろな面で、株が安くなったり、円が安くなったりしていく中で、子供たちの未来を広げるという意味で今英語教育をやっていますけれども、しっかりとそういった先生の確保に努めていくというのがまず一つの課題。

そしてもう一つは、こうしてフィリピン、マリキナ市と姉妹都市になって、実はマリキナ市立大学は、観光業とか、それからレストラン業という職種の大学の講座があるのです。ですので、前回行ったときには、町の民間業者、それは養鶏の会社でありましたけれども、やはり一緒に行っていただいてフィリピンから、今度はインドネシアとかではなくて、フィリピンから雇用を確保したいといって一緒に行かれて、今フィリピンの方を雇用していますので、今後様々な職種においてフィリピンの方々を我々もご紹介ができるような、そういうような機会もできるのではないかと思いますので、ホノルル同様、フィリピンも教育で入っておりますけれども、そういったフィリピンの方を境町で働けるような、そういうような環境。例えば飲食店で働くとか、さらにはそういった工場で働くとか。そして、働く際には、そういったアフターフォローができるような。

我々は、やっぱりフィリピンの先生を二十数名抱えておりますので、そういったところで、境町に行くとき安心して働けるというようなことをしっかりしていけば、お互いに、フィリピン側としても、マリキナ側としても、そして境町側としてもウィン・ウインの関係になるような、そういうことができるというふうには思っていますので、ぜひ議員さん方も、今回行かれた方は、ちょうど人材派遣の大きな会社の社長さんも夕食会には来られていましたので、そういったところと企業をマッチングさせるような、そういったこともやっていくと、また広がりがあるのかなというふうには思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご答弁いただき、ありがとうございました。今後も積極的に交流のほうを深めていくということなので、今後も一緒に、私のほうも積極的にそちらのほうに関心を示して、一緒にやっていければと思っております。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） アルゼンチンに対してはよろしいですか。

○1番（佐怒賀康輔君） アルゼンチンもよろしいですか。すみません。

実際に今現状で、モンテネグロを中心とした、長田小学校を中心とした交流だったり、あとは先ほどもお話ししたように、スポーツの交流というところで、この2つの柱が今大きなかなというふうに思っているのですが、やっぱりホッケー場をまだ見たことがないという町民の方がいらっしゃったりとか、実際に先日試合を、私もちょっと顔を出させていたときに、何名か町民の方も見学に来られていたのですけれども、まだまだ。もうちょっと大々的に、ホッケー等を通じてアルゼンチンの方と交流でもやっていければいいのかなとは思ったのですが、今現状やっていること、プラスアルファで、スポーツ等について何か考えられていることというのがもしあれば、お伺いできればと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えします。

アルゼンチンとの交流は、ペリーの艦隊の通訳を境町の方がしたというところから150年ぐらいの歴史があって、その後モンテネグロ公使が来た際に、うちの祖父がお世話になったという話が記事になって、それで、それはうちの祖父だということで交流が始まって、それで90年というような話であります。

そういった中で、今アルゼンチンの国と我々はやっているものですから、大使館含めですね。それをやはり自治体レベルに落としていく。フィリピンもマリキナ市とやらせていただき、ハワイ州もホノルル市とやらせていただいていますので、今アルゼンチンの国とやっていますので、国ではなく、もう少し自治体のレベルに落としていく。前に大使も、中前大使ですか、中前大使から我々は今回推薦いただいて、外務大臣表彰もいただきましたけれども、ちょうど今の大使からも、あるアルゼンチンの図書館とうちの図書館を姉妹図書館にしないかとか、向こうがすご過ぎて、調べたらちょっと乗れなかったのですけれども、そういう話が来たりとかありますので、今後そういった自治体レベルに落としていく中で、交流をしていきたいというふうに思っていますし、子供たちはアルゼンチンを楽しみにしていますので、次年度ぜひまたアルゼンチンへの派遣を再開させていただきたいなど。コロナの状況がありますけれども、子供たちは本当にアルゼンチンに行きたかったと。行けないままに卒業してしまったというような子供たちがいますので、そういったところをしっかりとやっていきたいと思っています。

また、今日の朝、5時半にホッケーのアルゼンチンの女子代表、銀メダリストたちが帰りましたけれども、今回はぜひ、コロナが落ち着いていて、銀メダルを持ってくるので、町民

の皆さん、それから子供たちとも触れ合いたいという話をされていますので、議会の皆さんと相談しながら、また招聘するのにもお金はかかるところでありますが、さくらジャパンとのマッチとか、そういったことをやることによって、ホッケーを通してのまちづくりなどというのもできると思っていますので、ぜひまた議会の皆さんと相談して、来年度、そういった活動ができたらなというふうには思っていますので、よろしく願いをしたいと思えます。

以上になります。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

○1番（佐怒賀康輔君） ありません。

○議長（倉持 功君） これで姉妹都市等との今後の取組についての質問を終わります。

次に、さかエール!!P a y についての質問に対する答弁を求めます。

秘書公室長。

〔秘書公室長 忍田 博君登壇〕

○秘書公室長（忍田 博君） それでは、佐怒賀議員の2項目め、さかエール!!P a y についての1点目、現時点での流通額についてとのご質問にお答えいたします。

さかエール!!P a y 発行事業につきましては、発行総額2億円、1人当たり5万円を購入限度として、マイナンバーカードを持っている町民の方を対象に、今まで紙券で発行していた商品券を電子クーポンに変えて、8月17日から販売を開始いたしました。昨日までの発行総額は5,549万3,750円で、1,028名の皆様に購入をいただいておりますので、ご報告申し上げます。

今回のさかエール!!P a y の販売につきましては、境町のマイナンバーカードの取得率が、4月末時点で34.9%、県内順位33位と低かったことから、このカード所得者とさかエール購入対象者をひもづけしまして、実施をさせていただきました。

マイナンバーカードを持っていない方は購入いただけないことから、町としては当初、発行総額2億円の完売はなかなか難しいであろうと見込んでおりました。一方、5月のマイナンバーカード申請件数は151件、6月は149件、7月が333件、8月が734件と4か月間の合計1,367件の申請を受け付け、これまでの申請受付総数は1万1,917件となり、これに対してカードの交付済み件数は9,460件で、その差が2,457件となっております。この申請者の中には、さかエール!!P a y 購入を希望される方も多いためと思われまますので、仮に2,457名の皆様が上限であります5万円の購入をいただいた場合には、1億2,285万円の販売が見込まれますので、日々の販売額を100万円として、約1億円の販売を見込んでおります。

今後マイナンバーカードの普及とともに、さかエール!!P a y の購入方法につきましては、しっかりと啓発をしてまいりたいと考えております。

あわせて、コロナ禍における経済対策と物価高騰による生活支援及びマイナンバーカード普及のため、これを取得した65歳以上の高齢者や18歳以下の児童を対象に、電子クーポン、さかエール3,000円分を無償で配布する事業を実施させていただきます。この景品に

つきましては、第1弾さかエール!! P a y の予算枠を活用して実施をしてみたいと考えております。

また、さかエール!! P a y を企業や農家支援のため、1事業者当たり上限20万円、プレミアム率25%で、飼料や肥料、燃油などの高騰対策としまして実施いたしますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

続いて、2点目の町外からの訪問客の利用についてとのご質問にお答えいたします。事業実施当初は、町外の方のご利用も検討しておりましたが、今回当町のマイナンバーカード普及率が低いことが判明したことから、今回はさかエール!! P a y 購入者とマイナンバーカード取得者をひもづけることとして事業を実施する旨、議会の皆様にも事前にご説明をいただき、実施させていただいております。町内の経済活性化のためには、町外から来ている町内在勤者の方まで購入対象者を広げるべきではありますが、マイナンバーカードの普及率が地方交付税とひもづけられるという事情もございますので、こちらを優先させて実施してみたいと考えております。

今後は、町内在勤者等の皆様にも購入いただけるよう、新たに事業を検討してみたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） 丁寧なご答弁ありがとうございました。当初は町外の方にも利用されることを想定した上で、今回はマイナンバーとの兼ね合いがあるのでということで限定されたというお話だったので、来年以降、また改めて経済活動の一環として、外の方にもご購入いただけるという方針で進まれるのかなというふうに認識をさせていただきました。

一方で、このクーポンは25%プレミアムがついているのに、税金に使えたりとか水道代が払えたりとかということで、非常に素晴らしい取組だというふうに思っております。電子クーポンの課題の一つとして、導入のハードルが、紙のクーポンを購入するよりもちょっとハードルが高くて、特に常時スマートフォンだったりを使っていない高齢者の方なんかは使いにくい点があるかと思うのですが、こちらは利用者増加に向けて、何か今後お考えをされているようなことがもしあれば、教えていただければと思います。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えします。

この後、議員の皆さんに議決いただいて、3,000円配れるという形になった際に、スマートフォンを持っていないとか、それからスマートフォンを持っているけれども、使えないとか、そういった方々がたくさんいると思うのです。多分18歳以下のお子さんをお持ちの保護者の皆さんは、スマホを持っていて、スマホで申請できるとは思うのですけれども、そういったところの、例えば行政のデジタル化とか、いろんなことを言われていても、やっぱりそこでなかなか使えない、使いづらい、使おうというのに一歩踏み出せないとか、そういった

たところがあると思いますので、その辺は丁寧に町としても何か、申請会だとか、例えば今日寺山会長がいらっしゃいますけれども、いきいきクラブで呼んでいただいて、そこで各地域でやるとか。

またちょっとマイナンバーカードの話になってしまいますけれども、さかエール!! P a y を今回組み合わせたものですから。都城市とかが、実は16万人の市で80%を超えているのです、マイナンバーカードの取得率が。そういったのは、やっぱり出て行って、しっかりとそういう申請も受けたという話を聞いていますので、やっぱり一軒、一軒訪問したりとか、地域の公民館に集まっていただいてとか、そういったところで申請をしてもらって、そしてこれを申請したのを契機に、買いませんかとか、もらえますよとか、そういったことをやっていければなと思っていますし、今公務員の皆さんもいろいろ仕事を抱えて忙しい中ではありますので、そういった人材を、例えば会計年度職員とかで採用したりとか、そういったこともしながら普及に努めていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） 丁寧に答弁ありがとうございました。この電子クーポン、非常に期待のほうをさせていただいておりますので、今後も推進のほうをぜひよろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（倉持 功君） これで佐怒賀康輔君の一般質問を終わります。